

過労運転・SAS対策

Document & Review ドキュメント&レビュー

医療・機器の 有効活用を



潜在患者の対策必要 ドライバー、発症しやすい

「てんかん患者による交通事故が注目されているが、それ以上に運送業界は中高年男性の5人に1人とされるSAS患者対策に力を入れるべきではないか」と強調するのは、SAS対策事業や健康サポート事業などを手掛けるヘルスケアネットワーク(OCHIS、武田裕理事長)の作本貞子副理事長。SASは予防法や治療法が確立されており、「取り組めば必ず交通事故防止につながる」と力を込める。

OCHIS副理事長

作本 貞子さん

たものや、12年4月に京都市東山区で乗用車が歩行者をはねて死傷者を出したケースが記憶に新しい。周囲の人が肥満である人を見かねて重大事故の原因は44%、喫煙習慣がある人は54%を占めた。運動不足と睡眠不足の人も多

く、SASとの因果関係がSASの方が断然多く、(運送事業者は)もっと目を向ける必要がある」と指摘する。

しかし、「患者の割合はSASの方が断然多く、(運送事業者は)もっと目を向ける必要がある」と指摘する。それに対し「SAS検査

SASは睡眠や運動、食の受診率はトラックドライバーの10%にも満たない」と分析する。要因として、

不規則な生活を強いられることも多いトラックドライバーは、「(一般の人に比べて)発症する確率が低い」と強調する。OCHISが13年10月に発表した「運輸関係者の生活習慣アンケート」結果でも、回答したトラック、バ

「運動などのコストを掛けずにできる対策も重要で、日常業務の中の生活改善に向けた指導教育も不可欠。良質な睡眠なくして安全運転は実現できない」と話す。